

風力発電事業への参入

ワタミの夢風車「風民(ふうみん)」が稼働しました。

ワタミグループは、グループのCO₂削減、日本で停滞している再生可能エネルギーの普及促進に寄与することを目的として、風力発電事業に参入しました。秋田県にかほ市の市民風力発電プロジェクトにワタミグループより資金を拠出して風車建設を支援し、2012年3月から発電を開始しました。建設された風車は、ワタミの夢風車「風民」と名付けられました。



名前の由来

美しい地球を未来の子どもたちへ残したいとの思いから、この事業に参加し、電力と環境価値を購入するワタミグループの社員公募により、ワタミの夢風車「風民(ふうみん)」と命名されました。この名前には、「人々の思いをのせて未来の子どもたちへ届けたい」という意味が込められています。

事業概要

「未来の子どもたちのため、原子力発電や化石燃料に頼らない社会を創りたい、そのためにひとつでも多くの再生可能エネルギーを普及させたい」という理念のもと、一般社団法人「このうら市民風力発電」は設立されました。

このプロジェクト理念に共鳴し、市民風力発電とワタミグループが協力して事業全体の推進の役割を担いました。

このうら市民風力発電は、にかほ市、にかほ市民の皆様、そして参加企業の協力を得て、発電を開始しました。

このプロジェクトにより、風車をはじめとした再生可能エネルギーの環が日本中に広がっていくことを、心より願っています。

- 運転開始日：2012年3月1日
 - 事業参加：市民風車の会あきた、北海道グリーンファンド、株式会社市民風力発電（基金、事業計画・開発、事業運営）/ワタミ株式会社（資金融資、電力・環境価値購入）/昭和リース株式会社（資金融資）
 - 建設協力：東光電気工事株式会社/株式会社ユアテック/株式会社日立製作所/富士重工業株式会社/若築建設株式会社/東和電気工事株式会社
- ※敬称は省略させていただきます。

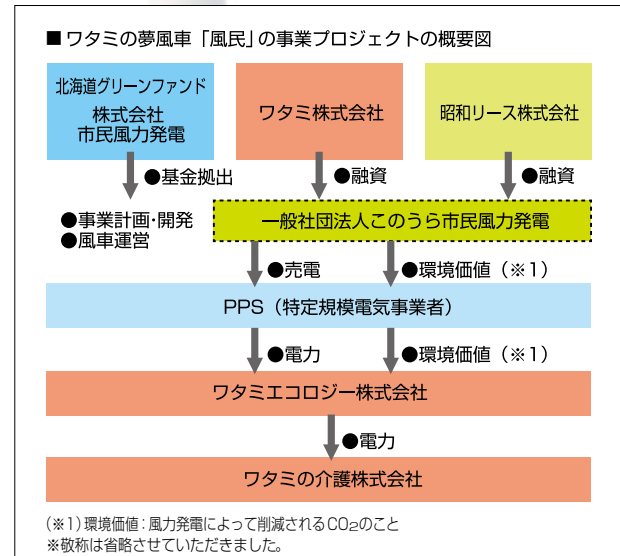
発電された電力の活用

ワタミの夢風車「風民」により発電された電力は、主にワタミの介護施設で使用されています。また、2012年6月30日に開催された株主総会およびワタミ感謝祭で使用された電気（約5,000kWh）、同年7月7日に開催された関西経営説明会で使用された電気（約1,000kWh）、本ふれあい報告書の印刷のために使用された電気（約1,000kWh）も、「風民」から生まれたグリーン電力を使用しました。

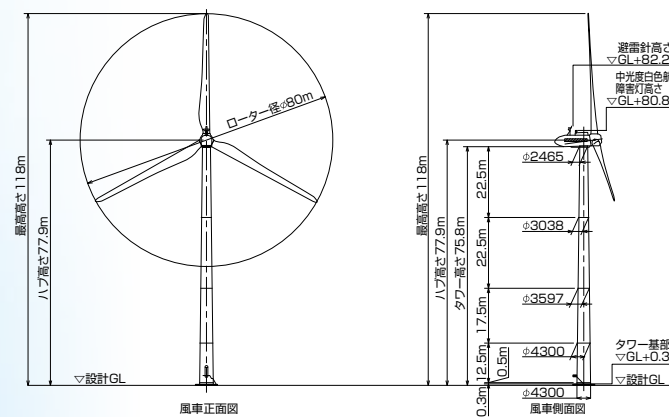
「風民」の事業プロジェクト

ワタミグループは、ワタミ（株）が融資する一般社団法人このうら市民風力発電プロジェクトの風車（ワタミの夢風車「風民」）が発電するグリーン電力（ワタミグループの電力使用量の約3%）と環境価値（ワタミグループのCO₂排出量の約2%）を、PPS（特定規模電気事業者）を通して購入しています。

このプロジェクトの最大の特徴は、環境価値をすべてワタミグループで購入することにあり、これは日本では初めての取り組みです。

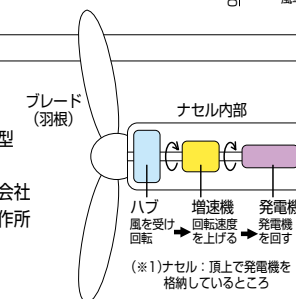


風車の仕様



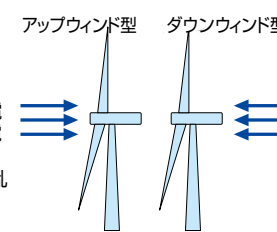
風車の概要

- 全 長：約120m
- 重 量：約250t
- 型 式：ダウンウィンド型
- 発電出力：2000kW
- メーカー：富士重工業株式会社 株式会社日立製作所



風力発電とは？

- ① 発電原理：強い風を受けてブレード(羽根)が回転し、その力で発電機を回して電気をつくります。
- ② 方式：アップウィンド型：正面から風を受けて発電
ダウンウィンド型：背面から風を受けて発電
- ③ ダウンウィンド型の特徴：背面から風を受けるため台風などの強風や乱流に対して、ナセルをスムーズに回転させて対応することができます。



風車完成までの過程



再生可能エネルギー事業による地域への貢献

火力発電や原子力エネルギーのような大規模集中型の発電に対して、再生可能エネルギーは小規模分散、地域密着型のエネルギーと言われています。1号機の稼働は、秋田県にかほ市の皆様のご協力により実現しました。この1号機を通じた地域とのつながりを保てるよう、地域物産の活用や社員旅行の実施などを検討しています。

今後の再生可能エネルギー事業の展開

ワタミグループは、2012年7月から施工された再生可能エネルギー全量固定価格買取制度を前提として、2020年にグループで使用するすべての電力量と同程度の再生可能エネルギーの導入を目指しています。

2012年度には、1号機同様、秋田県内で同規模の発電容量（約2,000kW）の風車2基の建設に参加する予定です。2012年度末にこの2基が竣工することによって、グループで使用する電力量の約9%程度の発電能力となる予定です。これらの風力発電と並行して、太陽光発電、小水力発電、バイオマス発電などの導入可能性も検討していきます。

今後も、地球で事業活動を営む企業の責任として、環境宣言「美しい地球を美しいままに、子どもたちに残していく」の実現に向けて、一層の地球環境負荷低減を推進していきます。

東日本大震災復興支援のご報告

被災地への思いを風化させない、忘れない。



2011年3月11日に発生した東日本大震災により、被災された皆様には心よりお見舞い申し上げます。

ワタミグループでは、被災地への思い、復興支援を決して一時的なものにせず、継続的に行うため、「ワタミから日本を元気に」をスローガンに行動を開始いたしました。

活動は公益財団法人 School Aid Japan（代表理事：渡邊美樹）を全面支援する方針で進めており、震災発生直後より被災地への救援物資の輸送を皮切りに、様々な取り組みを行いました。

※SAJは本来、開発途上国の子どもたちの学校に寄与する公益財団法人ですが、今回の震災に限り、内閣府から許可を取得し、支援活動を展開しました。

SAJに対する支援金の寄附

ワタミグループ国内外食全店舗では、2011年5月1日から11月30日にかけて、ご宴会コース全メニュー（飲み放題料金を含む）の売上の1%をSAJの災害支援活動に対し、支援金として寄附させていただき「復興支援キャンペーン」を実施しました。キャンペーン期間を通し、累計で58,250,078円をSAJに寄附させていただきました。

また、ワタミグループは、従業員から寄附を募る、外食店舗、介護施設に募金箱を設置するなど、社内外に対し、災害募金のお願いを広く呼びかけました。

2012年4月末までに、「復興支援キャンペーン」での寄附も含め、総額で98,569,147円をワタミグループからSAJへ寄附しました。



外食店舗に設置したキャンペーンポスター

SAJと協力した、おせちのお届け

ワタミ（株）とSAJは、渡邊美樹が参与を務める陸前高田市の仮設住宅にお住まいの方より、「お正月のおせち料理を準備できないので、おせちを提供して欲しい」とのご要望を受けました。こうしたご要望に対し、ワタミ（株）とSAJは協力して、ワタミタクシヨクが販売するおせち5,450個を、陸前高田市および住田町の仮設住宅にお住まいの方を対象にお届けしました。



お届けしたおせち「一段重箱小づち」

ワタミタクシヨクによる「陸前高田受付センター」の開設

ワタミタクシヨクは、2012年2月、長崎県諫早市に続き2拠点目となる受付センターを、陸前高田市に開設しました。「陸前高田受付センター」では、東日本エリアからの宅配弁当注文などのお問い合わせに対応しています。

新受付センターの開設は、被災地の雇用創出も目的の一つとしてあります。



■ワタミグループがこれまでにやってきた支援活動

年	月	支援活動の内容
2011	3	SAJの復興支援活動を全面支援するため、SAJに対する支援金の寄附を始める。
		SAJからの要請により、ワタミの介護で被災地のご高齢者様を受け入れる。 (福島原発から50kmの運営不能になった特別養護老人ホームのご入居者様を受け入れさせていただきました。福島県の介護施設の運営が再開されるまで、ワタミの介護のホームで約1か月お過ごしください、4月にお戻りになられました。)
		WFSのダイレクトフランチャイズオーナーで結成されている「豊樹会」が、被災地で炊き出しなど、支援活動を開始する。
	4	国内外食店舗にて、日本酒「南部美人」(岩手県)と「一の蔵」(宮城県)の販売を強化するための取り組みを行う。
		ワタミの介護の従業員がボランティア活動に参加する。 (一般社団法人全国特定施設事業社協議会より、被災地における特定施設の業務全般の支援や、避難所生活をされている要介護高齢者支援などを目的とした「震災支援スタッフ募集」の案内をいただきました。その呼びかけに呼応し、従業員が被災地に赴き、様々なお手伝いをさせていただきました。)
5	国内外食店舗にて、復興支援キャンペーンを開始する。	
2012	6	SAJの支援活動に協力し、ワタミタクシヨクが炊き出しを行う。 (埼玉県加須市に避難されている福島県双葉町の方々に「野菜たっぷり皿うどん」を提供させていただきました。)
	7	SAJによる陸前高田市復興支援ボランティアへ参加。10月まで継続して参加する。
	12	ワタミ（株）がSAJと協力し、陸前高田市の方におせちをお届けする。
2	雇用創出を目的の一つとし、ワタミタクシヨクが陸前高田市に受付センターを開設する。	

SAJが行った活動のご紹介

被災地への救援物資のお届け

SAJは、宮城県副知事と支援活動方法について相談の上、2011年3月15日から2011年10月28日まで、計33便にわたり、救援物資を被災地へお届けしました。飲料水や食料、生活必需品など、県が必要と判断する物資を、一便一便必要な場所へお届けしました。

陸前高田市復興支援ボランティアの派遣

SAJは、2011年7月より、SAJの活動趣旨に賛同していただいている旅行代理店様と連携し、ボランティアを募集、貸切バスで陸前高田市へボランティアの派遣を行いました。2011年10月までに計72回、約2,500名のボランティアを現地に派遣しました。
※瓦礫撤去などが8割がた終了し、ボランティアによる復興支援活動の終息も近いと実感したため、瓦礫撤去などのボランティア募集・派遣は、2011年10月2日をもって一時停止しましたが、現地からの要請があった場合は、活動の有効期間内（平成26年12月31日まで）の範囲で支援活動を継続します。

ワタミグループは、社員からボランティアを募集し、団体にこの復興支援ボランティアに参加しました。活動が一時停止となった2011年10月までに計347名が参加し、重機が入ることの困難な場所の瓦礫を撤去したり、手入れを行うことができずに荒れてしまっている土地の草刈りなどを行いました。



陸前高田市復興街づくりイベントの後援

2011年8月27日、28日の2日間に渡り、渡邊美樹が実行委員長を務める「陸前高田市復興街づくりイベント～街おこし・夢おこし～」が開催されました。当日は、震災前の陸前高田市商店街の町並みを再現、地元のお店や全国のグルメ店が来店され、約17,000人の方にご来場いただきました。

SAJは、このイベントの後援団体として、企画運営および会場などの設営を支援する活動を行いました。



陸前高田市復興街づくりイベント特別記念講演の開催

SAJは、2011年9月19日、陸前高田市復興街づくりイベント特別記念講演として、「渡邊美樹と考える みんなの夢シンポジウム in 三陸気仙地区」を開催しました。当日は、SAJ代表理事の渡邊美樹から、「みんなで街おこし・夢おこし」をテーマに、27年間の経営ノウハウを地元経営者の方々にお伝えすべく、夢をかかなる、仕事で成功するポイントを講演させていただきました。

「経営勉強会」の開催

SAJは、地元企業の復興支援を目的とし、三陸地区（陸前高田市、大船渡市、住田町）の事業主、商店主、住民の皆さま、約60名を対象とした「経営勉強会」を、2011年11月から2012年3月まで計6回にわたり開催しました。

経営勉強会では、ワタミグループ創業者でもある渡邊美樹から参加者の方々に、ビジョン、経営戦略、マーケティング、資金調達など、経営の要諦について講義させていただきました。



経営勉強会の様子

- 1回目：～理念～…経営の技術の本質として、「理念（ミッション）」「ビジョン」「戦略」についてお話し、経営者として大切な考え方について講義しました。
- 2回目：～心構え～…株式会社原田教育研究所 代表取締役社長の原田隆史様を講師に迎え、「仕事と考える、人生と思え！」をテーマに、仕事に対する心構えについて講義させていただきました。
- 3回目：～ビジョンと戦略～…ビジネスモデル、事業戦略、戦略グループなどのキーワードをもとに、売上や利益を生み出す仕組みや、どのように他と差別化を図るのかについて講義しました。
- 4回目：～組織戦略/人材戦略～…「マズローの5段階の法則」をベースに、「社員を幸せにする5つの基本」についての講義を行い、渡邊美樹が考える組織論について紹介しました。
- 5回目：～ファイナンス～…さわみ投資株式会社 代表取締役会長の澤上篤人様を講師に迎え、時代を先読みしたビジネスモデルをつくること、長期投資を行うことの重要性について講義させていただきました。
- 6回目：～まとめ～…参加者の皆様に事業報告書を作成していただきました。

「ツール・ド・三陸 サイクリング チャレンジ 2012 in りくぜんたかた」への支援

2012年9月、「ツール・ド・三陸 サイクリング チャレンジ 2012 in りくぜんたかた」が開催されました。このイベントは、東日本大震災によって甚大な被害を被った三陸エリアの復興街づくりを、環境にやさしい自転車イベントを通して、地域振興と広域観光の推進を1回で終わらせるのではなく、継続的にサポートしていくことを目的として実施されました。

SAJは、このイベントに協賛企業として参加させていただきました。

ユヌス・ソーシャル・ビジネスへの取り組み



○ユヌス・ソーシャル・ビジネスを推進する 合併会社を設立します

ワタミ(株)は、2011年12月、グラミン銀行創始者で2006年にノーベル平和賞を受賞したムハマド・ユヌス氏が代表を務めるユヌス・センター（所在地：バングラデシュ人民共和国）と、ユヌス・ソーシャル・ビジネスを推進する現地法人を共同出資（合併）で設立することについて、基本合意を行いました。契約締結の際には、九州大学ユヌス&椎木ソーシャル・ビジネス研究センターのご協力をいただきました。

九州大学ユヌス&椎木ソーシャル・ビジネス研究センター ホームページ…
<http://sbrc.kyushu-u.ac.jp/>

合併会社の概要

- 会社名：WATAMI Social Business Ltd.(仮称)
- 所在地：バングラデシュ人民共和国 ダッカ
- 主たる事業：①人材育成 ②飲食チェーン経営及びフランチャイズ事業
- 資本金：1万USドル
- 出資比率：ワタミ株式会社…90% ユヌス・センター…10%

合併会社が目指すこと

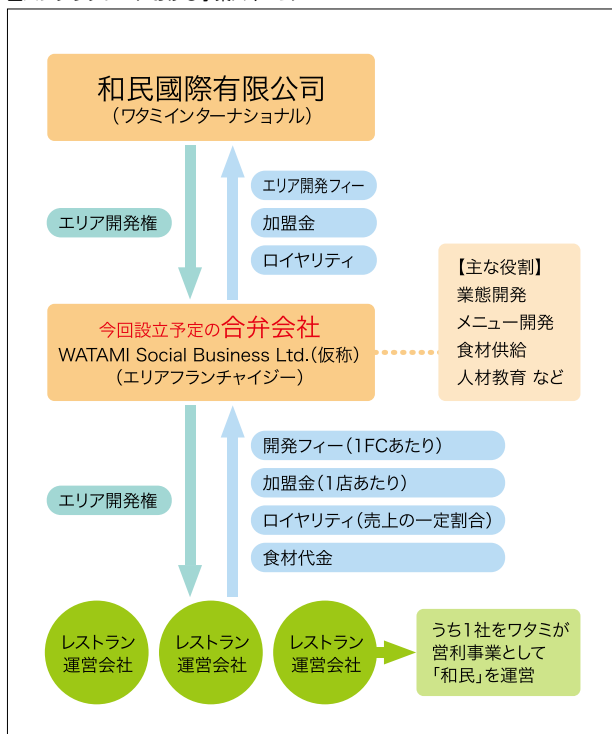
合併会社の設立の目的は、バングラデシュにおける社会的課題（貧困、衛生、教育、食育など）を「食」に関する事業を通じて解決することです。

バングラデシュは経済成長が見込まれる一方で、貧困・衛生・教育などの社会的課題がなお多く存在しています。

ワタミグループが海外で展開している外食業態をバングラデシュに出店するだけでなく、ワタミグループがこれまで培ってきた外食事業のノウハウ（業態開発、フランチャイズ運営など）を活用し、低～中間所得層でも利用可能な業態を開発・展開していきます。同時に、バングラデシュでの雇用を創出することで、人々の生活改善をサポートするとともに、同国の外食産業の発展を担う人材育成にも取り組みたいと考えています。

2012年に合併会社の設立を予定しており、2014年を目処に1号店開業を目指します。

■バングラデシュにおける事業スキーム



○ユヌス・ソーシャル・ビジネス・ファンドへの出資について

収益力のあるユヌス・ソーシャル・ビジネスを日本で育てるため、ユヌス・ソーシャル・ビジネスを行う企業や個人に出資することを目的として立ち上げを計画されているファンドに対し、ワタミ(株)は1億円を出資することを予定しています。

このユヌス・ソーシャル・ビジネス・ファンドの出資先に関しては、ユヌス氏が提唱する「ユヌス・ソーシャル・ビジネスの7原則」を満たしているかどうかを重点に選定を行います。

＜ユヌス・ソーシャル・ビジネスの7原則＞

- 事業の目的が、人々や社会を脅かす貧困や社会的課題（教育、健康、環境、など）を解決することであり、利益を最大化することでは無いこと
- 財政的および経済的に自立して持続性があること
- 出資者は出資分のみを回収し、出資者に出資額以上の配当は行われないこと
- 出資者が出資分を回収した後、会社の利益は当該事業の拡大や投資のために使用されること
- 環境に配慮すること
- 従業員はマーケットの水準の賃金とより良い労働条件を得ること
- 楽しみながら取り組むこと